宇都宮市指定無形文化財

八坂神社の神楽

宇都宮市中心部に位置する八坂神社は、1063年に初代宇都宮城主といわれている、藤原宗円が御本丸に築城の際、鬼門除けとして神明宮を建立したのが始まりとされています。この地は、奥州街道の出入口にあたり、交通の要衝として栄えてきました。神明宮は、明治43年に博労町の八坂神社と合祀され、社号を八坂神社に改称しました。

八坂神社に伝わる神楽は江戸時代から受け継がれてきました。神官の葭田(よしだ)氏が、江戸の神田明神からその技能を伝承してきた「出雲流神楽」で、現在では「葭田流太々神楽」といわれており、毎年春と秋に、境内にある神楽殿にて行われます。

神楽は、神の霊力を得て、様々な天災や人災・疫病などから免れ、また五穀豊穣・無病息災を祈願して奉納されています。

多くの氏子たちにより伝承されてきた「八坂神社の神楽」は、昭和43年３月に宇都宮市無形文化財に指定されました。

神楽の奉納は、２月最終日曜日の春祭と、11月23日の秋祭の年２回行われています。

神楽で使われる面は、宇都宮の仏師高田運春(たかだうんしゅん)作のものが多く、それ以外のものは寛政年間の初演以来のもと伝えられています。

現在伝わる神楽の演目は、「国定め」「猿田彦」「二神」「隋神」「天の岩戸」など18演目あり、当日これらの中より約10番組合わせて奉納されます。

「国定めの舞」（くにさだめのまい）
この舞は、神楽の始めに神官が素面で舞います。
神官は、大きな幣束を手に神楽殿を清めます。

国定めの舞

「猿田彦の舞」（さるたひこのまい）
天と地の道を創っていく道開けの舞です。天孫の道案内で知られる猿田彦が、手に持つ鉾で天地四方を切り開き大地を鎮め、これより登場する神々の先導役を務めます。

猿田彦の舞

「二神の舞」（にじんのまい）
天界の神「天津神（アマツカミ）」、地上の神「国津神（クニツカミ）」の二人の神が互いの名を問い、名乗りあいます。扇と鈴を手にした二人の神が同時に舞うその姿は、天地が融合して万物が生まれることを象徴しています。

二神の舞

「三狐の舞」（さんこのまい）
稲荷信仰の霊獣である狐による舞です。農民や漁民の生産についての苦労と喜びを、ユーモアいっぱいに風刺した、五穀豊穣を祈願する幸福を呼ぶ舞です。

三狐の舞

「天の岩戸の舞」（あまのいわとのまい）
この舞は、神楽の中で最も代表的な演目です。須佐之男命（スサノオノミコト）のたび重なる乱暴な行いにみかね、太陽神である天照大御神（アマテラスオオミカミ）は天の岩戸に隠れてしまいます。太陽神が隠れると世界は闇に包まれ災いが起こります。
困った神々は、天照大御神を誘い出すために宴を催します。猿田彦・岩戸二神の舞の後、大きな幣束と鈴を手にした天宇受売命（アメノウズメノミコト）が妖艶に舞います。最後に手力男命（タヂカラオノミコト）が剣を手に勇壮に舞った後、天の岩戸を力強く押し開けます。中から、天照大御神に見立てた鏡が現れ、世界は再び光に照らされ平和な世が戻ります。

天の岩戸の舞

「大蛇の舞」（おろちのまい）
八岐大蛇の伝説を題材とした舞です。手名槌命（テナヅチノミコト）の七人の娘は、今までに大蛇に喰われてしまい、いよいよ最後の一人の稲田姫（イナダヒメ）の番となってしまいました。道化の持ってきた酒を飲み干し、酔っ払った大蛇が稲田姫を襲おうとしたところに須佐之男命が現れ、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。

大蛇の舞

「恵比寿の舞」（えびすのまい）

豊かさと幸福をもたらす福の神である、恵比寿が登場する舞です。

道化は、恵比寿が持ってきた竿を借り、観客に向けて糸を垂らし釣りを始めます。恵比寿と道化が何度か釣りを楽しむうちに、大蛸が釣れてしまいます。道化と大蛸は釣れた鯛を争って相撲をとるなど、漁民信仰を愉快に表現した舞です。

「四季の舞」（しきのまい）

四季の色を表した幣束と鈴を持った、春夏秋冬４人の神と、奥津姫（オキツヒメ）による五穀豊穣を祈願した華麗で優雅な舞です。

「鉾八幡の舞」（ほこはちまんのまい）

玉取鐘馗（しょうき）とも言われるこの舞は、暗闇の中で、赤鬼と鉾を手にした鐘馗が宝玉を取り合う、勇壮活発で雄偉な舞です。

「天神の舞」（てんじんのまい）　（「鬼女の舞」）

菅原道真公といわれる青年命（セイネンノミコト）の前に現れた美しい姫。近づくと一瞬にして鬼女の姿に変わります。鏡に映った自分の醜い姿に狂乱する鬼女を鐘馗が退治します。

「隋神の舞」（ずいじんのまい）　（「門守の舞」）

神を守る二人の門守が、鈴と弓・矢を持ち四方を清めた後、矢を放ちます。しの竹で作られた破魔矢には厄除けの意味が込められ、拾うと縁起がよくご利益があるとされています。

「山の神の舞」（やまのかみのまい）

一日の神楽を締めくくる舞です。カラフルな乱幣（らんべい）を手にした青鬼は、乱幣を鈴に持ち替えて舞います。舞のあと、氏子たち総出で神棚に供えられた餅と榊を配ります。

蔑田蔡泉作（明治時代）
太々神楽絵巻（全二巻）より
「四季の舞」

恵比寿の舞

四季の舞

鉾八幡の舞

天神の舞

隋神の舞

山の神の舞

《八坂神社の神楽のご案内》

実施日：２月最終日曜日（春祭）
11月23日（秋祭）
場　所：八坂神社

平成23年度宇都宮市伝統文化映像記録作成事業

企画・制作：宇都宮市伝統文化映像記録作成実行委員会
協　　力：八坂神社の神楽保存会
助　　成：平成23年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
発 行 日：平成24年３月31日
著　　作：宇都宮市教育委員会

連 絡 先：宇都宮市教育委員会文化課
宇都宮市旭１丁目１番５号
ＴＥＬ．028-632-2764
ＦＡＸ．028-632-2765

文化庁